

福島国際研究教育機構施設の在り方に関するアドバイザリー会議（第2回）議事要旨

日 時：令和5年6月26日（月）11:00～13:00

場 所：福島国際研究教育機構（F-REI）会議室

出席委員：上野座長、石井委員、伊藤委員、小堀委員（Web参加）、田中委員、出口委員、
牧委員（Web参加）

※事務局より資料1から7を説明したのち、委員から意見を頂戴した。各委員の主な意見は以下のとおり。

- ・近隣住民との関係では音の問題が多いため、音が出るような施設や設備は住宅から離す配慮が必要。また、排気については質の問題だけでなく、排気口が住宅のほうに向いているだけで心証が悪いという声もあるので、そういう点も注意が必要。
- ・特に敷地の東側と北側の道路は、住宅があって人の営みが見えているので、単に植え込みをつくるのではなく、少し活動が見えるような外周づくりを意識することも大事。
- ・地域との関係性等を考慮して、敷地周辺は比較的バッファーを取り、少し緑地ゾーンの場所をつくって、町の人が遊びに来てても良いような場所とすることが必要。
- ・1階を公園のようなパブリックな空間として、2、3階をセキュリティーゾーンとするなど、平面ではなくて断面で検討する考え方もある。
- ・建築物の存在感を薄めるために、農業用水を引き込んで水のせせらぎをつくるなど、自然と一体となった、ランドスケープと一体となったものをつくってほしい。
- ・研究者が研究所という枠を離れて町とつながることや、研究所の外側の方々が研究所とどのようにつながるのかということを考えると、研究所の外側の空間の在り方は非常に大事。
- ・物理的に交流広場を作った場合、そこに行った人は交流するかもしれないが、日常生活の中で顔が見える場所にはならないので、いろいろな人々が自ずと通るストリート的なものを設けることも意識して配置を検討してほしい。
- ・米国の大学キャンパスではカフェテリアのような空間がキャンパス内のあちこちに分散していて、学生や教員が議論したり、異分野の先生方との交流の場となっている。そうした場が非常に重要なので、その点も踏まえて機能配置や施設のスペックを考えてほしい。
- ・研究所の外側の方々とつなげる役割を持たせるために、研究施設と何かを掛け合わせることで生まれる新しい場所や動きのようなものをつくり出せないか。
- ・5つの研究分野の配置に関して、5つの研究分野とそれを分野横断でまとめる交流空間の関係を早めに議論したほうがよい。それに応じて、エネルギーやインフラの供給方法

や実験機材の搬入方法等、キャンパス全体を機能させる機能についても早めに方向性を見つけたほうがよい。

- 研究環境や居住環境、地域や周辺的环境など、レベルの違うものをうまくつなげながら、まちづくりにつなげていくような視点が持てるとよい。
- 敷地の東側を開く際、町の一部として捉えてもらえるような場所になっていくとよい。向かい側に町の公共施設があるので、それらと連続的に使えるような場所になるとよいのではないかと。
- 本会議の範囲ではないかもしれないが、F-REI関係者が町の中で過ごすといった連携方法も引き続き検討してほしい。
- 敷地内の移動手段に関して、敷地が広く実験的なモビリティが出てくる可能性も多いにあるので、それも踏まえた配置の考え方ができるとよい。
- 研究室や実験室の中だけの研究実験ではなく、敷地内や町も含めて実証実験ができる形になるとよい。
- アメリカの大学にあるエクステンションのように、外の方に対して知恵を開いていくようなところがあったら良いのではないかと。
- 研究交流スペースや産学連携交流スペースを基準通りに分割して配置する考え方にとらわれずに、柔軟に工夫し、教育機能としても活用できるように検討すべき。
- 大学生や大学院生に対する教育に加えて、地域の若年層へのサイエンス教育や社会人へのリカレント教育、技術者教育なども広い意味で「教育」と捉えて、交流空間と一体的に教育機能のためのゾーンを形成していくことも検討してほしい。
- 浜通り全体を1つの大きなキャンパスと考え、F-REIがそのヘッドクォーターの役割を果たせるように、ここに来れば全て情報が分かるというような機能が必要。
- 今後、海外からの視察など科学技術ツーリズム的なものが増えていくので、今回の敷地の中ですべての対応は難しいと思うが、どのような形が良いのかを想定して将来像を描いてほしい。
- 線状降水帯が発生して短時間に豪雨となった場合など、その水をどう処理するかという点も少し検討する必要がある。
- 研究施設内はそれほど安全ではなく危ないところもあるので、洪水の際に一般の方の避難所として開放するか否かは、慎重に考えた方がよい。
- 災害時に電気を止めてはいけないところや何かあっても守らないといけないところと、セキュリティレベルはほぼ一致するので、一体的に考えるとよい。

- ・洪水の場合は、突然水が上がってくることは基本的にはないので、一般の方に対して建物の屋上を提供するというよりは、逃げ遅れた研究者が命を落とさないようなスペースとして活用するという考えでよいのではないか。
- ・F-REIには、一定規模の自家発電設備を設けるはずなので、地域の方にその電気を融通するという形での開き方ということもあって良いのではないか。
- ・水素利用については、実験としてというよりは、ガス系の熱源機を水素に代替するなどして通常のエネルギー供給として一部利用しているという見せ方ができれば、視察者等へのアピールになる。
- ・ある程度必要な電力量が整理できれば、水素も含めて電力をどのように確保するのか検討できるのではないか。
- ・地盤の高さについては周辺の市街地との連続性や将来の拡張性等も含めて検討したほうがよい。
- ・造成を建築計画と並行して行うのか、それとも災害対応や施設タイプに求められるスペックごとにある程度のゾーニングを想定した造成を先行して行うのかなど、造成計画が一つのポイントだと思うので、早く方針を決めたほうがよい。
- ・敷地を見て、あれだけ大きくフラットな場所に、どういう特徴や売りをつくるかというのは非常に難しいという印象。
- ・多くの資料が敷地だけになっているが、駅との結びつきなど周りとの関係を検討するためにも、もう少し広範囲に記載してほしい。
- ・配置と機能の構成については、ある程度パターンを示した上で、各委員が各パターンについてのイメージを共有して議論できるようにしてほしい。